

特集：私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて

私の考える教育システム情報学マップ
——問題逆遷移アプローチによるマップ作成の検討——

田和辻 可昌*

“Map” of Information and System in Education
—Consideration of Problem Reverse Transition Approach—

Yoshimasa TAWATSUJI*

In this article, I would like to introduce my opinion for “Map” of Information and System in Education (iSE-Map). First, in this project, I will consider the necessity to create a map and how to create a map. After this, a map creation method called problem reverse transition approach is proposed. Subsequently, the attitude to create map should be considered.

キーワード：教育システム情報学マップ，複合研究領域，問題逆遷移アプローチ

1. はじめに

本企画は、教育システム情報学会（以下、JSiSE）現会長である柏原昭博先生の巻頭言にもある「学術的な問いの共有・生産」⁽¹⁾に端を発して企画されたものとお伺いしている。若手としてまだまだ未熟な筆者がこのような内容で執筆させていただくこと自体が恐れ多くも有難く感じる。本誌では、本企画の目標「問いの体系化に向けた教育システム情報学マップ（本誌では、iSEマップと呼ぶ）を作る」にあたって、いくつか筆者のなかで浮かんだ疑問を挙げつつ整理しながら、今後の展開への私見について述べたい。

まず第2章では、そもそもなぜiSEマップなるものを作成するのかについて、筆者なりに考えたことを記述する。いくらか当然共有されていると思われることでも言語化して明示しておくことで意見の相違が発見できるかもしれず、今後のマップ作成において有益になる可能性があると考えたためである。このうえで、どのようにマップを作成すべきかについて筆者なりの考えを述べる。続く第3章では、第2章で与

えられたマップ作成アプローチを受けて、マップ作成に必要な考えを述べる。続く第4章では、このマップ作成において留意すべき事項を踏まえ、今後のマップ作成において生じるであろう課題を言及する。

2. なぜiSEマップを作るのか？

まず初めに、そもそもなぜiSEマップをつくるのかについて考えたい。問いの体系化においてiSEマップがどのように位置づけられるのかを検討することは出発点として重要であると考えられる。この検討は同時に、本企画で検討すべきiSEマップとは何かを定義することを可能にすると考えられる。

2.1 複合研究領域としての教育システム情報学

繰り返しになるが、本企画の目的は「問いの体系化」に向けてわれわれ若手研究者が考える「教育システム情報学」のマップを作成することにある。それでは、なぜ「問いの体系化」のためにiSEマップを作成するのかについて考えてみたい。大きくは教育シ

*早稲田大学グローバルエデュケーションセンター（Global Education Center, Waseda University）